診療室

元気があれば何でもできる

上村利也[†]（かみむら動物病院院長・鹿児島県獣医師会）

獣医師となって25年が過ぎようとしている．私は小動物臨床に携わっていて開業して18年になる．日常の診療に忙殺され，時折なぜ獣医師になったのかという思いに駆られることがある．私の実家は祖父が家畜商で庭には牛や豚がいた．父は大動物と小動物の獣医師で，開業のかたわら小さな乗馬クラブをやっており（どちらかというと乗馬クラブが専業であったが），このような環境で育った私は幼少より多くの動物に囲まれて育ち，たくさんの動物と触れ合えたが，幾度となく動物の行き末を見届けた．このつらい経験をもとに獣医師になったと自分には言い聞かしているが，正直父から言いくるめられて獣医師になったような気がしてならない．

大学は地元の鹿児島大学に入学した．4年生で講座に配属になるが，私は本県獣医師会会長の坂本　紘先生が仕切っていた家畜外科学教室に入局した．毎晩深夜まで実験をやるハードな講座で軟弱な私にはとても大変だった．しかし，次第にサボることも覚え，後輩と実験を抜け出して飲んだビールは格別だった．研究室の実験は人間医師と共同研究が多く，冠動脈バイパス手術の実験では心臓がドクドク動くのを目の当たりにして強烈な印象を受けた．この経験が現在の自分が循環器に興味持つ原点となった．大勢で一緒にやらないとできない実験が多く，ラガーマンでもある坂本先生は「One for all, all for one」を口癖にしてチームの和を大事にした．実験以外でも旅行や仮装ボーリング大会，鮎捕りなどみんなで行動することが多く，実験が早く終わった夜には酒盛りが始まり，先輩や後輩と夜を徹して飲んだ．鹿児島なので飲むと焼酎であるが，まだ焼酎ブームの前で決しておいしいとは言えない独特の芋のにおいのする焼酎で一気飲みをやらされたトラウマはいまだに消えないが，遊びに実験に力いっぱいみんなで過ごした我々の和は強力だった．今でもこの頃に培った先輩や後輩と酒を酌み交わすと楽しかった学生時代を思い出す．

卒業して2年後にカリフォルニア大学医学部の実験動物施設へ留学することになった．行ってみると研究室はスタッフ全員が留学している日本人医師で英語を使う機会がなく最後まで英会話が上達しなったが，日常ではそうはいかず，英会話に苦労して送った不自由した生活は今後生きていく上で良い経験になった．郵便局で受付の白人の金髪女性に中指を立てられたことは忘れない．研究室では症例のカンファレンスがあり，人医の周産期に関する内容のため詳細な内容まではわからなかったが，エビデンスや診断のフローチャートなど現在の診察を進める上で重要なことを学んだ．サンタアニタ競馬場で開業医につく機会があり，朝から晩まで競走馬の診療で厩舎を回った．鎮静と局所麻酔だけ枠馬なしの去勢手術や，1日で10症例をこなす関節鏡手術など驚かされることが多かった．

私は気が付くと40代後半．まだやれると思ってはいるが，最近目が遠く手術していてもルーペが必要と感じるようになったと同時に，手術に対して向上心も含めて消極的になったような気がしていた．そんな中，後輩が体外循環での開心術を始める準備をしているとのこと．私も恋い焦がれていた手術であったため，チームに入れてもらいたいが，目も遠いし心が消極的な方向にもあり，自分に自信がなかった．しかし，今が踏ん張りどころと思い，元気を出してチームに入れてもらった．今はチームみんなから力をもらって奮起している．

向上心なしには良い診療ができない．しかし，向上心を持ち続けることは難しい．一歩ではなく二，三歩は前進したい．元気があれば何でもできる．危ぶむなかれ，迷わず行けよ，行けばわかるさ．

上村利也

—略　歴—

1990年　鹿児島大学卒業
同　　年　同附属家畜病院研究生
1992年　カリフォルニア大学アーバイン校留学
1995年　かみむら動物病院開業
1999年　獣医学博士取得

† 連絡責任者：上村利也（かみむら動物病院）
〒891-0113　鹿児島市東谷山1-75-12　☎・FAX 099-267-8669　E-mail : kami-vet219@proof.ocn.ne.jp